

ハニーホテル



What's in a name?

おおさわ よしみ
大澤 由実

民博 機関研究員

二〇一七年の末、タイの首都バンコクにあるひとつのホテルが閉館した。その名は「ハニーホテル」。併設されたレストラン・ハニーのタイ料理がなかなか美味しくて、よく食べに行っていたのだ（ちなみにスパイスで和えた肉を揚げたラープ・トートが絶品だった）。

ある日たまたま、このハニーホテルにはGーホテルジーアールとしての歴史があることを知った。

Gーホテルとは？ 時は六〇年代、ベトナム戦争までさかのぼる。多くのアメリカ軍兵士（Gー）がR&R（レスト・アンド・レクリエーション）とよばれる保養休暇の制度を利用してタイを訪れたのだ。当時タイでは兵士を迎え入れるホテル、バー、ナイトクラブなどが続々とオープンし、観光産業が一気に発展したそう。これにはもちろん性的娯楽産業の発展も含まれる。

バンコク市内でも次々と開業したGーホテル、どこも一泊五米ドルほど、プール付き、コーヒーを提供する、そしてゲスト・フレンドリー、つまり売春婦などを部屋に連れてきてても文句を言わないなど、共通の条件があったそう。

これらのホテルの名前がなかなか面白い。まず、「フロリダ」「マイアミ」「マンハッタン」「アトランタ」「ボストン」など、アメリカの地名をつけたものが多い。兵士が祖国や故郷を懐かしめるような名前をつ

けたのだろう。きつと「ロンドン」や「パリ」では駄目であったに違いない。

親しい人呼びかける「ハニー」に加え、「エンバシー（大使館）」「グレース（優雅）」「リバティー（自由）」「フェデラル（連邦）」などもある。これらの名前今の時代に聞くと古めかしい、言っては悪いが少々安っぽい響きをもつ名前だ。この時代のホテルの名前は、そんなものだったのだろうか。そして「自由」「連邦」、じつにアメリカらしいネーミングである。アメリカ軍兵士が相手となると、「ロイヤル（王室の）」とか「エンパイアー（帝国）」などは選択肢になかったのかもしれない。

ベトナム戦争終結後、Gーホテルはヨーロッパなどからの外国人観光客を対象に経営を続けた。しかし、ここ一〇年程でこれらのGーホテルの閉館が相次いでいる。バンコクでは建築ラッシュが続いていて、古いホテルや建物がどんどん壊されている。インターネットでホテルのレビューを見ると、ハニーホテルの閉館を悲しむ声が多い。「ひとつの時代が終わった」。元Gーを名乗る人からのコメントだ。

ハニーホテルの古ぼけた建物とレストラン、いつも昼間からビール片手に何となく時間を過ごしている年配の白人男性客の様子、そしてホテルと壊した後はどうなるかわからないと言っていたベテラン従業員と絶品ラープ・トートの味がすでに懐かしい。